

今月の症例

1週間前からの食思不振⇒原因は？

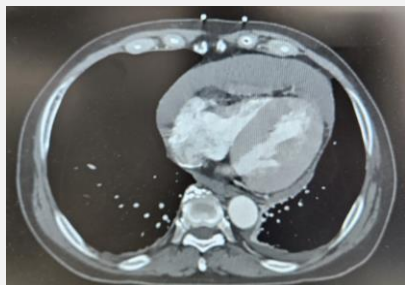
症例： 57歳 男性

主訴： 食思不振

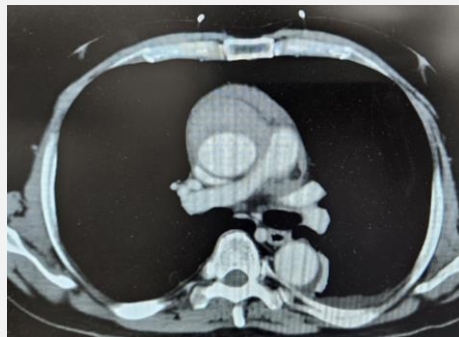
経過： 1週間ほど前に突然の嘔吐あり。本人は腸炎などと思って自宅療養していたが、その後食思不振が続くため、近医受診。採血では炎症反応の上昇を認め、ECGにて全誘導の軽度ST上昇あり、心外膜炎の疑いにて当院紹介。

当院での経胸壁心エコー検査にて多量の心嚢液貯留を認め、心外膜炎・心筋炎疑いにて入院予定となったが、スクリーニングのCT検査にて大動脈解離StanfordAの診断にて緊急手術の方針となる。

多量心嚢液貯留

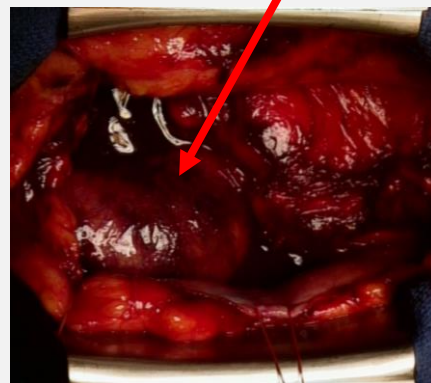


急性大動脈解離StanfordA



術中所見

解離した上行大動脈



- ①急性大動脈解離の6%程度は**無痛性**である 2020大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドラインより
- ②採血での炎症反応上昇や症状では消化器疾患とも矛盾しない
- ③急性発症の心嚢液貯留では少量でも症状を呈することがある

文責 恩賀陽平

スタッフ紹介 Vol.14



本郷 卓
(ほんごう たかし)

医師 副院長
麻酔科 集中治療科
1988年 日本医大卒
大阪府 出身

麻酔科も集中治療科も自ら主治医となり病気を治す科ではありません。

必要があれば患者さんと主治医をサポートして安心を届ける科なのではないかと思えます。私も現場にいるだけで、いろいろな事がうまく回っていく、そんなふうになりたいものです。

